

現地ルポ

栃木県那須地区共同利用模範牧場

始動したモデル 育成牧場

農地開発機械公団による共同利用模範牧場設置事業は、昭和四十年より開始され、すでに栃木県那須地区で完成、長野県梅路原、大沢両地区は今年最終の三年目に入り着々その事業が推進されている。

更に昭和四十二年度においては、青森県北部上北地区、北海道訓子府地区、昭和四十三年、北海道庶野、新潟県東山、福井県大野勝山各地区において、それぞれ着手並びに計画され、昭和四十四～五年度においても、北海道、秋田、石川、福島、埼玉各県において事業計画されている。いわゆる、建売住宅ならぬ建売牧場といわれるものである。同公団の機械力にものをいわせ、そのモデル牧場が着々造成されているわけで、この共同利用模範牧場の趣旨としては、畜産経営の安定を計るため、各種施設、草地基盤の確立、多頭数飼養経営や地方公共団体による乳肉牛の共同育成事業を推進し、よって畜産の振興を計ることを目的としている。

☆ ☆ ☆

栃木県那須地区の共同利用模範牧場は、昨年で造成事業を完了し、今年四月より本格的に経営を開始する。栃木県那須町より、車で約二時間、栃木県の最北部に位置するこのモデル牧場を那須町農協深谷酪農指導次長の案内で、現地向う。

はるか雪をいただく檜岳、朝日岳、茶臼岳を見上げるここ丘陵地帯は、標高四五〇～一、〇〇〇級の高原地で、大きく陥没する窪地や、ゆるやかに遠くまで続く小高い丘が連なり、雄大な状景を思わせる。

元、黒磯町農業改良普及所、指導所長であった松本場長の説明も吐く息白く、当地のきびしさを象徴しているかのようであったが意欲的な言葉にしばし感銘を受ける。

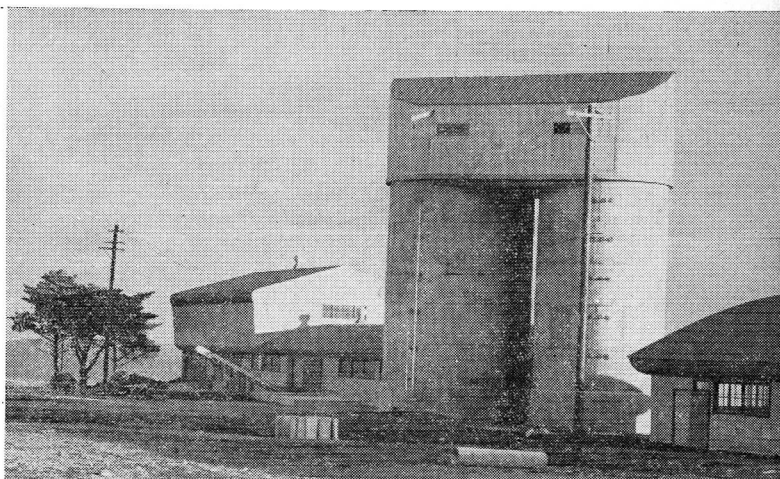
事業の概要

当地は花崗岩しょう土で、気象条件は夏期三二～三〇℃の高温時もあるが、冬期零下一〇度以下も長く、十一月下旬から約一二〇日間、四〇～四五センチの積雪期間もあり、かなりきびしい条件であり、また当地は典型的な三寒四温型という。

三十九年に模範牧場設置として指定計画され、四十年より草地約四〇㍏の造成、施設として、畜舎、サイロ、住宅が建設され、四十一年に入り、草地約九〇㍏、畜舎、格納庫、乾燥施設、住宅等の全施設が次々に整備され、最終年度の四十二年において草地約一三〇㍏の造成完了し、着手三カ年において、草地合計約二六〇㍏、庇陰林、沢地、施設面積を含めた総面積は三七〇㍏という規模である。これまでテストケースとして、育成牛数一〇頭の放牧を試みているが、実質的には、今年四月一日より本格的に開始されることになる。当牧場では、県下の農家を対象とし、夏期放牧（五月～十月）として、約五〇〇頭、一頭一日当り八〇円、周年育成として、約六〇頭を見込み、一頭一日当り、一五〇円の預託料で実施される予定である。

必要性を説く追肥の効果

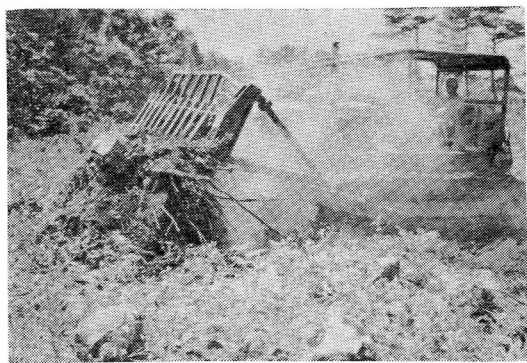
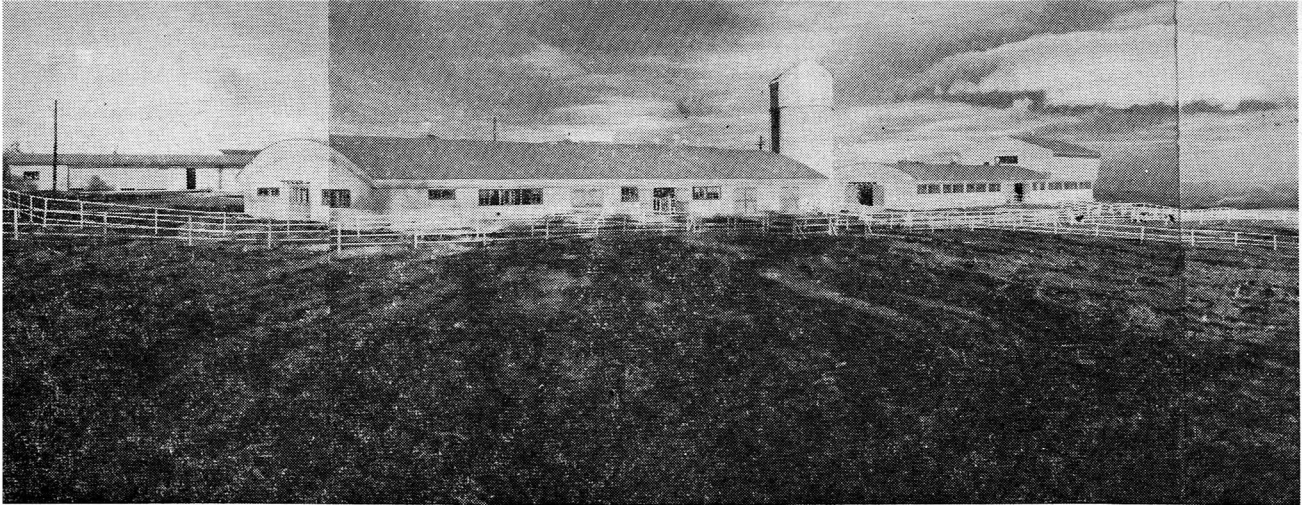
本事業の草地造成には、すべて雪印の優



サイロ（一基二四〇トン）と牛舎

良種子が使用され、見渡す限りの立派な草原には、春を待つ力強い牧草のエネルギーというものが、身に感じる。

草地の維持には十分な管理が必要であることはいうまでもなく、とくに施肥については、追肥の効果を説き、計画的に実施されている。一〇㍏当り、草地化成肥料（6-11-11）一五㍏、尿素一〇㍏を、四月放牧一カ月前に施用、途中七月にも同量入れ、十一月に入り、草地化成肥料一五㍏を放牧切上げと共に施用、併せて、牛尿をできるだけ有効にその都度散布し、その肥効を確



造成当初のレーキドーザーによる抜根

広い敷地に整然と建ち並ぶ施設は、近代的な共同利用模範牧場としての姿を示している。空にそびえるスチール製の大型サイロ二基、左右に配置している畜舎一号（搾乳牛舎）、二号（育成牛舎）、更に飼肥料舎、

整備された各種施設

五月～十月頃までの放牧で、この間、殆ど放牧による飼養に徹底するか、一部冬期に給与する牧草サイレージ、乾草を併用し、全く牧草オンリーであることも、省力化を計った単純経営方式として注目されるところである。

乾燥舎、燃料庫、農機具格納庫、一方には住宅四棟が立ち並び、必要な大小農機具類が整備されている。

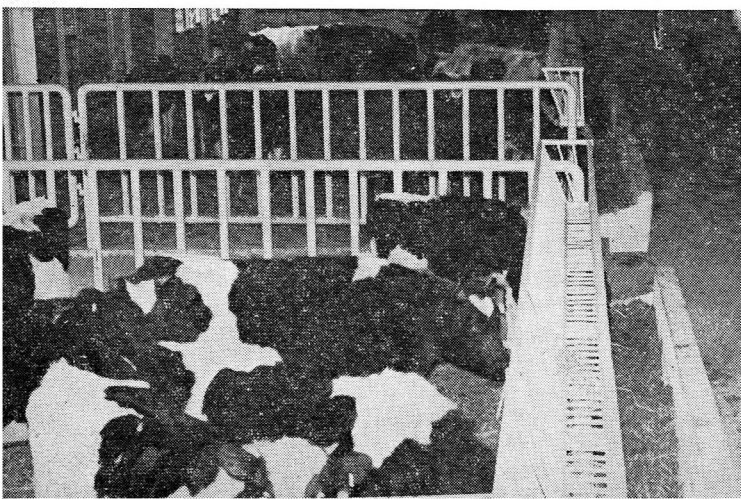
稼働人員は、サイレージ、乾草調整時などには、一時臨時雇員を入れる以外は、場長を含め三人の場員で運営される。

造成草地の草種と播種量（10㎡当り）

	kg
オーチャードグラス	2.5
チモシー	0.5
ベレニアルライグラス	0.5
イタリアンライグラス	0.1
ケンタッキーブルーグラス	0.4
ケンタッキー31フェスク	0.025
ニュージーランド白クローバ	0.5
7種混播計	4.525 kg



左より場長
中央は深谷氏、右筆者



育成牛舎内の子牛

本牧場設置事業費は約二億円といわれているが、この内国庫交付金として五〇%、残り五〇%は公団借入金で、それぞれ栃木県と那須町で分担して返済し、将来は、独立採算制にもっていく方針という。

モデル共同牧場として愈々実施する本事業の発展を祈り、あわい夕陽にうけた白いサイロと遠くまで伸びる白い牧柵が極めて印象的である当牧場を後にする。

（雪印種苗・東京支店 近藤隆）